

## 生徒の皆さんにお願いです

今日は「プチ自慢」から書きますね。

昨年度から書き続けているこのメッセージもそうなのですが、私は話のネタを見つけてるのが苦になりません。担任時代は、二十代後半から生徒たちに向けて、毎日黒板の端から端までメッセージを書いてきました。したがって、自然とその力がついたのでと思います。

朝や帰りの会で話す時もそうです。「今日は何を話そうかな」ではなく、「生徒たちにこれを話そう」とネタが見つかるとすぐに書き留め、その中からピックアップして話しました。

これまでに、教え子たちにはいろいろなことを話しましたね。私も話したかったので、朝や帰りの会には「先生の話」をたっぷりとらせました。大きな声では言えませんが、授業でも脱線したことは多々ありましたね。ささいなことでも、大きく面白く生徒たちに話すことを、私自身が楽しみにしていました。

担任を外れてからは、生徒たちにざくばらん話すチャン스가なくなりました。そして今は、話す機会があっても、「学長の話」とか「式辞」とか脱線が許されない時ばかり。だからこそ、このメッセージで自分をありのままに出せることを本当にうれしく思いますし、私自身の楽しみになっています。

おっと、「プチ自慢」が長くなりました。

実は近年、思うことがあります。私は四十五歳まで担任（学年主任兼務）をやりましたので、それと比べると現在の担任はずいぶん若いと言えます。今年度の担任の平均年齢は、三十歳を切りました。若い分だけ経験不足は否（いな）めません。しかし、若い担任たちにはこれからもっともっとと素敵な教師になるために、力を付けてもらわなければいけません。それが私たちベテラン教師の務めでもあるのです。

そこで、生徒の皆さんにお願いです。あなたの担任の朝の会帰りの会の話の皆さんが評価してください。評価と言っても、「点数をつけてほしい」ということではありませんよ。これからの担任の話の中で、「面白かった」「考えさせられた」「感動した」「頑張ろうという気になった」「気もちが前向きになった」「反省した」など、皆さんの心を刺激したことがあったら、こっそり私に教えてほしいのです。だれからの情報提供かは内緒にしますので、どうぞ遠慮なく言ってきてください。

このメッセージは、生徒以外に様々な方たちが読んでくださっていることがわかりました。私自身、その方たちから直接声をかけてもらったこともあります。そして、それが大きな励みとなり、毎日やりがいを感じてこのメッセージを書いていきます。「教師が生徒を育てる、生徒が教師を育てる」両者が磨き合って、互いに成長していきましょう。今日は校長として生徒の皆さんにお願いをしました。たのおね！（四月十六日 記）